



川口の教育



【第14回いじめゼロサミット（小学校：Skipシティ、中学校：市立高校小ホール）】

第644号

【目次】

年頭のあいさつ		川口市教育委員会教育長	井上 清之	・・・(2)
教育随想①	「学 校」	川口市立原町小学校長	加田 明	・・・(3)
教育随想②	「感 謝」	川口市立芝西小学校長	郡 豊	・・・(3)
教育随想③	「37年間の出会いに感謝」	川口市立芝西中学校長	星野 泰久	・・・(4)
教育随想④	「感謝申し上げます」	川口市立仲町中学校長	中島 俊幸	・・・(4)
指導の手引き	「～特別支援教育 特別なものではなく、一人一人に合った支援を～」	川口市教育局学校教育部指導課 指導主事	高野 愛	・・・(5)
教育ルポ				・・・(6)

1 月号

—令和5年—

編集・発行 川口市教育委員会

年頭のあいさつ

川口市教育委員会教育長 井上 清之



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、令和5年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は各学校・園において、「一人ひとりが輝く、しなやかさとたくましさをそなえた人材を育てる川口の教育」の推進に多大なるご尽力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

振り返りますと、昨年も新型コロナウイルス感染症拡大の収束の見通しは見えず、感染対策の徹底と学びの継続を両輪にして、教育活動を行わなければならない状況でした。そのような状況の中においても、前川小学校の学校保健文部科学大臣表彰、鳩ヶ谷中学校の学校安全文部科学大臣表彰、上青木中学校の全国中学校体育大会ソフトテニス男子団体優勝、西中学校の全国中学校体育大会柔道女子個人優勝の他、中学校8校の全国大会への出場など、県・全国に川口の名を広めていただいた数々のうれしい報告がございました。これはまさに、日頃の熱心な取組が実を結び、大きく花開いた成果と捉えています。

また、各学校・園におかれましても、前例のない中で、新しい視点で物事を考え、創意工夫を凝らした教育活動を展開していただきました。感染症対策による限られた環境の中で、よりよい教育活動ができるようご尽力いただきました校長先生、園長先生方をはじめ、教職員の皆様に深く感謝申し上げます。学校・園において得られる豊

かな学びや体験は、子どもたちにとって健やかな成長につながるものであります。引き続き、感染対策の徹底と学びのさらなる充実をお願いいたします。

さて、川口市教育委員会は「信頼され、愛される教育委員会」として、学校のパートナー・サポーターとなる開かれた教育委員会を目指します。重要施策として、学力の向上に加え、「誰一人取り残すことのない不登校対策」と「部活動の地域移行」を掲げ、支援の質と量に視点をあてた不登校対策と、誰もが文化・スポーツに親しむことができる部活動改革を一丸となって推進してまいります。

児童生徒の資質・能力を育成するためのGIGAスクール端末の活用につきましては、今年度、全小中学校にミライシードを導入し、効果的な活用の方法について研究や実践を積極的に行っているところです。子どもたち一人ひとりに応じた学力向上の方策として、GIGAスクール端末の活用は大変有効であります。また、学力向上のみならず、特別支援教育の視点、不登校の児童生徒や日本語指導を必要としている児童生徒への支援等、一人ひとりが個別最適な学びを実現できるよう、GIGAスクール端末の活用を一層深化してまいります。

各学校・園におかれましては、誰一人取り残すことなく、子どもたちがもつ力を確実に伸ばす指導法の工夫改善に努め、一人ひとりが輝く教育活動の実現をお願いいたしまして、年頭のあいさつといたします。

<教育随想①>

「学校」

川口市立原町小学校長 加田 明



「一度きりの人生だから本当に好きなことをやろう」教員となり初めて担任したクラスで子供たちに最初に伝えたメッセージです。

将来の目標が定まらない高校生の頃、「やりたいことは何だろう？」と自問自答して出した答えが「絵を描くこと」でした。それまではなんとなく勉強し、よい学校、よい会社に入ることをよしとする当時の常識？に流され、具体的な目標も持てずに学校生活を送ってきました。しかし、画家になりたいという目標が決まってからは、高校に通いながら絵の予備校にも通い、必死に絵の勉強に打ち込みました。なかなか上達せず辛いこともありましたが、また、絵を描くことばかりに夢中になって大丈夫だろうか？という不安もありました。しかし、好きなことに打ち込むことの素晴らしさを実感し、充実した毎日を送っていました。

美術大学に入った私は現代アートに夢中になり、その意義や可能性について考えたり、作品をつくったりする日々でした。そんな学生生活を送っていた中、アイドルの自殺報道がありました。その直後、多くの10代の子供たちが後追い自殺をして社会問題になりました。難しいアートのことばかり考えていた私は、「子供たちのためになにかできることはないか？」と考えるようになりました。直接自分の思いを伝えたい、少なくとも自分の好きなものをつくるアートの世界は素敵だよというメッセージを直接子供たちに伝えたいと思うようになり、中学校の美術教員という道を歩みはじめました。そして「勉強が苦手でも、美術の授業は好き。」そんな子供たちが一生懸命作品に取り組む姿を見ることのできる美術教員の仕事に夢中になりました。

月日は流れ、画家になる予定だった私は、「自分の夢を大切に！夢に向かって大きく羽ばたこう。」という言葉をお子たちに伝える校長になりました。

美術に限らず好きなこと、興味を持ったことに自ら取り組み、自分の可能性を伸ばすことはとても大切なことだと思います。学校は子供たちにとって安心できる楽しい居場所であること、自分の夢を見つけチャレンジするための力を育む場所であること、そして未来を担う子供たちを育てる場所であることを大切にしていきたいと思います。

<教育随想②>

「感謝」

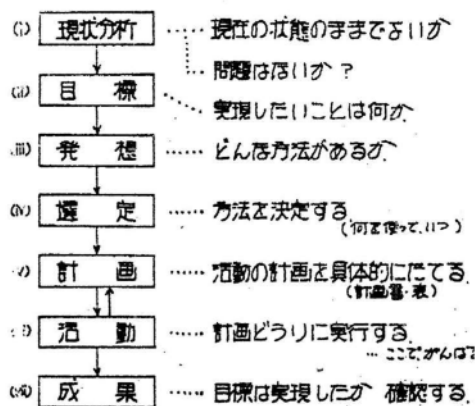
川口市立芝西小学校長 郡 豊



デスクマットにある1枚のメモ。新米教員として着任し、何も分からない私に丁寧にご指導くださった学年主任のM先生からいただいた宝物だ。仕事の進め方、学級経営の在り方を記されている。

今では、どの学校でも取り組んでいるPDCAサイクルの進め方を38年前に教えていただいた。

1学期(学習)の進め方



幸いなことにM先生は、私と同じ理科を担当されていた。単元構成、実験準備、事象提示、生徒への指示・支援、テスト作成など、教科指導の全てを細やかに教えてくださった。具体的に授業を見せてくださり、また、私の授業にも足を運んで、指導してくださった。そして、T.T授業の中で実際の動きを体験させてくださった。温かいご指導をいただいても、定期テストでは、私の担当する学級の平均点は常に10点ほど低い。「生徒に申し訳ない」と、自分の力不足を嘆く私を励ましてくれた。また、難しい生徒の生活指導には、いつも同席して見守ってくださった。優しいM先生。

M先生には、プライベートでもたくさんの楽しみを教えていただいた。クラシックコンサート鑑賞、野球観戦、信州の山歩き、テニスやスキー、山小屋での生活……。ワークライフバランスのとれた充実した教員生活を送れたのもM先生のおかげだと思う。

振り返ると、多くの方にご指導いただき、支えていただいたことが思い出されます。心から感謝いたします。幸せな教員生活でした。ありがとうございました。

＜教育随想③＞

「 37 年間の出会いに感謝 」

川口市立芝西中学校長 星野 泰久



小学校3年生の放課後、担任の先生が「逆上がり」のできない子を集めて毎日指導してくださいました。できた子から順に帰っていききましたが、私は最後まで残りました。やっと成功した鉄棒の上から見た景色。「できない」ことが「できる」ようになった奇跡のような瞬間でした。

この時の感動と先生との出会いが教員を目指す私の原点になりました。

初任の中学校では、着任してすぐ、学年の先生方と壊されていくつ箱の修繕をしました。毎日のように起きる生徒指導に、戸惑うことばかりでした。生徒たちと年齢も近く、指導者というよりは口うるさい新米、という存在だったのでしょうか。学年の先生方には生徒指導を一から教えていただきました。

創設した柔道部では、生徒と共に全国大会出場という目標に向かって練習を重ねることが楽しく、部活動に没頭する毎日。県内外、多くの顧問の方々との出会い、様々な指導の仕方も教えていただきました。生徒が成長していく姿は、大きな心の糧でした。

長年の夢だった海外（台北）日本人学校では、全国から集まった先生方や海外で学ぶ児童・生徒との出会いを通して、日本の教育の素晴らしさ、国語（日本語）の大切さを再認識しました。そして台湾の先生と接する中で、自国の歴史や文化について語れることは、語学ができる以上に大切なことだと気づかされました。

今、夜間中学の陽春分校では、「学びたい」という想いをもった生徒の姿勢に圧倒されています。教育とは、知識・技能はもちろん、生涯学ぼうとする意欲を育むものでもあると実感しています。また、卒業式では、還暦をはるかに超えた生徒や海外にルーツをもつ生徒から、卒業証書の重みを教えられました。

こうして振り返ると、未熟ながらも多様な経験をさせていただいた恵まれた37年間でした。

私が恩師から受け取った教育のバトンを、次代の誰かに手渡すことができたらどうか、先生に恩返しができたらどうか、先生は「よくがんばったな」と言ってくださるだろうか…。当時の先生の年齢をとうに超え、退職を目前にした私は、しみじみ思うことがあります。

この37年間、教育者とよばれる立場ではあるものの、生徒、先生、保護者、地域の方との出会いで育てられ、支えられた教員人生でした。川口を始め、今まで出会ったすべての方々に心より感謝いたします。

＜教育随想④＞

「 感謝申し上げます 」

川口市立仲町中学校長 中島 俊幸



昭和61年4月新採用数学教員として川口市立十二月田中学校へ着任したのが今から36年前。教師として社会人として右も左もわからず、中学より修練を続けてきた剣道の気合い一つで教員人生がスタートしました。

剣道部顧問として県内、関東と活動範囲を広げていく中で、「十二月田」の読み方「しむすだ」が、周りの方々にめづらしがられていたことを思い出します。

私の教諭として歩みは、剣道とともにありました。当時は中学校で初めて剣道を始める生徒が多く、初任校を含む4校の生徒とともに励む稽古を通して、市内優勝、県大会優勝、関東、全国へと突き進んでいきました。そこにはいろいろな苦難や感動がありました。出会った生徒たちはもちろん、保護者の方々、ライバル校の先生方からいろいろなことを学ばせていただきました。感謝です。

そして管理職。自ら学校を盛り上げていきたい、先生たちに生徒とともに歩む教員という仕事の素晴らしさを伝えていきたいという思いから目指した道。その間には「教頭とは、校長とは」といろいろな先輩方からアドバイスをいただきました。管理職として学校を任されてからも諸先輩方から励ましの言葉や経験から来るアドバイスなど沢山いただきました。そのお陰でここまで頑張ることができました。感謝です。

「感謝」という言葉は、コロナ禍でいろいろな制限を乗り越えて実現した昨年度の修学旅行で当時の3年生徒たちが考案したスローガンです。修学旅行が実施できることへの感謝を関係する先生、保護者、旅行会社、現地のスタッフの方々すべての人たちに向けた「感謝」の思い。私の教員人生においてこの「感謝」という言葉が当てはまると感じています。

川口市から始まり朝霞市、合併したての旧鳩ヶ谷、戸田市、そして再び川口へといろいろな地域の生徒、保護者、地域の方々に温かいご支援をいただきました。今まで本当にありがとうございました。

「感謝」しています。

最後に「教育に未来あれ！」

あとを引き継ぐ先生たちに期待します。

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 高野 愛

過日、文部科学省が発表した全国実態調査によって、通常の学級において、発達に課題があると思われる児童生徒の割合は全児童生徒の 8.8%であることが明らかになった。10年前の前回調査から 2.3 ポイント上昇し、35人学級なら 1 クラスに約 3 人が読み書き計算や対人関係などに困難があるとみられる。

特別支援教育は、全ての園・学校において実施されるものである。それゆえ、教師一人一人が、知識と理解をもって、指導にあたらなくてはならない。そこで、本稿では、学校の体制と具体的な支援について提案する。

1 校内支援体制の充実を図る

特別支援教育コーディネーターを中心に特別な教育的ニーズに応じた支援・指導を「チーム」で検討する。

校内委員会

- (1) 実態の把握「何に困っているのか」
 - ・学級担任等の指導・早期発見と実態の把握
- (2) 支援と指導の検討「困難さを解消・解決する支援」
 - ・支援が必要な児童生徒の支援策の具体化
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の立案と作成
- (3) 全教員への共通理解と目標の共有

※連携時には、連携のねらいや各機関の役割を確認した上で、情報の取扱いに充分気を付け、丁寧に行う必要がある。

(4) 関係機関との連携

- ・市教委（教育研究所）、子育て相談課、障害福祉課
- ・医療機関、福祉機関、放課後等デイサービス等
- ・県専門巡回員、特別支援学校コーディネーター

2 日々の教育活動での具体的な支援のポイント

発達に課題がある子・あると思われる子にわかりやすい授業は、すべての子供にわかりやすい授業である。

(1) 実態の把握

- ・特に苦手なことはどんな時・場面に見られるのか、他の教員や保護者と相談をして、観察・記録する。
- ・要因となるものは何かをチームで考える。

(2) ユニバーサルデザインで授業・教室環境の充実を授業の流れやめあての明確化

- ・一時間の授業の流れやめあてを、可視化する。
- ・「この時間でこれができれば OK」の課題を設定する。
- ・指示は、具体的に短くこまめにする。

板書や書くときの配慮

- ・板書の量を配慮し、色や文字の大きさの工夫をする。

- ・プリントは黒板とリンクさせ、書く量や内容、枠の大きさ、記入時間の確保等、配慮する。
- ・書き写すことが苦手であれば、板書の写真を撮るなど、柔軟に対応する。

教室環境の整備

- ・特に前方の掲示物はシンプルにする。気が散りそうなものは、できるだけ視界に入らないようにする。
- ・集中できるように、高さの合う机や椅子を準備する。

(3) 本人への支援

「強い力を生かす」「弱い部分を伸ばす」支援を

- ・関心の強いものや特定の知識がある場合には、それを学習や学級経営に生かす。
- ・うまくできたことをほめ、自分のよさを実感し、自信ややる気もてるように、関わり方を工夫する。
- ・弱い部分や不得意なことも含め、自身の特徴であると認識できるよう、寄り添った支援をする。
- ・自身の弱い部分を補い、伸ばせるように GIGA スクール端末や ICT を利活用できるようにする。

みんなが活動しやすいルールや指示の明確化

- ・安心して取り組めるように、先に指示を出す。
- ・急な変更があるときは、見通しがもちやすいように、目に見える形にする等の配慮をする。

(4) クラスの仲間への指導

友達のよさを認めあう学級づくり

- ・みんなが得意なこと、不得意なことがあることを理解し、認め・助け合う雰囲気をつくる。

3 保護者との連携のポイント

共に考える姿勢・情報の共有 「信頼関係づくり」

- ・保護者の困り感・ニーズは何か、しっかり傾聴し、結論を急がずに、保護者と共に考える姿勢を大切に
- ・義務教育終了後の進路や就職後の先のことまで思慮している保護者も多いため、担任だけが抱え込まずチームで丁寧に対応する。

4 おわりに

特別支援教育への理解が進み、今まで以上に学校の役割も大きくなっている。引き続き、校長のリーダーシップのもと、特別支援教育コーディネーターを中心としたチーム体制のもと、子供達が安心して学校生活を送ることができるように、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を行っていただきたい。

【参考資料】

令和4年度研修資料「特別支援教育の理解のために」
(埼玉県総合教育センター)



教育ルポ



川口市マスコット「きゅぼらん」

★子供たちが真剣に話し合ったり、発表したりする機会がありました。互いに高め合い、成長する姿が大変印象的でした。

第14回いじめゼロサミット

(令和4年12月21日(水) 於：小学校：Skipシティ、中学校：市立高校小ホール)



川口市小学生 English パフォーマンスコンテスト

(令和4年12月27日(火) 於：市立高校大ホール)



第17回「身近な生き物」絵画コンクール

(令和4年12月13日(火)～18日(日) 於：アトリア)

